

ゆで豆用 落花生新品種

「愛の香り」の特性と栽培方法

A 「愛の香り」の特性

「おおまさり」に比べ

- 1, 莢と実が10%ほど大きい。
- 2, 草姿が立性で、コンパクト。株元に莢が着き、管理作業や収穫・脱莢作業が容易。
- 3, ゆで豆が甘い。
- 4, 10aあたりの生莢収量は、10%以上多い。
- 5, 土壌病害（白絹病、茎腐病）の耐病性は、「おおまさり」並で防除に留意する。
- 6, 株元が乾きやすく、高温を伴うと空莢や幼芽褐変症が発生しやすい。
梅雨明け後に2、3回の灌水が必要。1回目は梅雨明け7日後、2回目以降を7～10日間隔で行う。特に、採種栽培では翌年の幼芽褐変症による発芽不良を防止するため、必ず実施する。
- 7, 「おおまさり」並の晩生品種で、開花期（全体の株の半数が累計で開花始となった日）から85日後がゆで豆としての収穫適期の目安となる。

B 「愛の香り」の栽培方法

栽培暦

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	下旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中旬
べたがけ マルチ栽培	●	●	▲▲		■	■	
マルチ栽培		●	●	▲▲		■	■
無マルチ栽培		●	●	▲▲		■	■

● 播種 --- 不織布被覆 — マルチ被覆 ▲ 開花期 ■ 収穫期
(パスライト等)

以下、特性や栽培暦等の補足事項として、記させていただきます。

1、圃場の選定

水はけが良く、作土の厚い肥沃な土壌が望ましい。白絹病や茎腐病等の土壌病害への耐病性は中程度なので、病害多発圃場は避ける必要がある。

白絹病対策としてはフロンサイド微粒剤、茎腐病対策としてはトップジン M 剤やベンレート剤の灌注・株元散布やキヒゲンフロアブル剤の種子塗抹処理などが効果を発揮するが、完璧では無い。多少でも病害の発生している圃場では、日頃の見回りと病害株の周辺土壌も含めての搬出廃棄処理が、基本的な対策として重要である。

また、キタネコブセンチュウによる被害を避けるため、センチュウが増殖しない作物との輪作が望ましい。それらには、冬春作ではムギ類、夏秋作ではサツマイモ、サトイモ、スイカ（自根）、マリーゴールド、クロラタリアなどがある。やむを得ず、その他の作物と輪作したり、落花生の連作をする場合は、殺センチュウ剤を使用する。落花生には D-D 及びテロン農薬登録がある。

2、施肥

前作に完熟堆肥を施用し、地力や保水力を高めておく。

標準的な圃場では、「おおまさり」と同様に 3-10-10 化成を 100kg/10 a、苦土石灰を 60kg/10a を基肥として施用する。多肥傾向のある野菜跡地では、徒長しやすく減収となるので、土壌診断を行うなどして減肥するのが望ましい。

3、播種

「愛の香り」の地上部生育程度は、やや強の「千葉半立」と極強の「おおまさり」の中間となる強である。この生育に合わせた栽植密度で播種する。

具体的には、1 条植えのマルチ栽培では株間 40 cm、条間 120cm とする。2 条植えのマルチ栽培では、9230 規格のマルチを用い、株間 60cm（1 穴抜き千鳥植え）、条間 45cm、ベッド幅 70cm、通路幅 60cm で播種・栽培する。さらに、無マルチ栽培では、株間 40cm、畝間 80cm で播種・栽培する。

また、種子数が充分あれば、播種する前に特に大粒の種子をサンプリングし（10 粒程度）、ハサミ等を利用して丁寧に割って子実内部の幼芽を観察すると良い。一部が褐変しているようなら発芽不良が起こる可能性がある。その場合は、1 穴の粒数を増やすか、1 度に播かず追い播き用の種子を確保するかして、発芽不良トラブルを回避するようにする。

手元種子数が少ない場合は、種子分解はできないので、ポットに播いて育苗し、発芽した株を圃場に定植すると良い。

なお、拙園の販売種子は、一応幼芽褐変症のチェックを行っており、今回は問題が無いことを確認しているため、1 穴 1 粒播きで播種可能です。

4、マルチ等の保温資材の除去

開花後、子房柄が地下を目指して伸びてくる。保温資材（マルチ等）に達する前に、保温資材を除去する必要がある。開花が始まる頃には、資材の保温効果も減少しているため、直ちに除去してかまわない。資材の除去時に抜けかかった株は、軽く土寄せをする。

5、灌水と病害虫防除

梅雨後の灌水はたっぷり行う。灌水量は 1 回当たり単位面積あたり 30 ～ 40mm、灌水受けを儲けてチェックすると安心できる。

土壌 2 病害の他にチェックすべき主な病害虫は、次のとおり。

地上部病害：褐斑病、黒渋病、サビ病、そうか病 地下部及び地上部害虫：ヒョウタンゾウムシ類、コガネムシ類

「愛の香り」におけるこれらの病虫害の発生程度、抵抗性については不明です。特異的な発生が見られたら、お知らせください。

6、収穫・出荷

収穫目安日の2～3日前になったら、試し掘りをし、成熟程度を判定する。莢表面の網目がはっきりし、押ししてもへこまず中の実が充実している莢が70～80%程度になったら収穫適期なので、収穫する。過熟になると甘さが低下するので、気をつける。

収穫莢は水洗いして陰干し表面が乾いたら、ネット袋に入れて出荷・販売する。千葉県農林総研でのデータでは、常温でも5日程度は品質を保って販売できる。但し、出荷前は水分が飛ばないように、段ボール箱等で保存しておく必要がある。また、店頭で陳列販売する時には見栄えの良いFG袋に入れ替えても良い。

7、種子の更新と注意事項

品種特性の維持のために、定期的に（3年に1度程度）種子を更新する。

なお、自家増殖した「愛の香り」の種子を他人に譲渡することは、有償・無償を問わず種苗法により禁止されています。充分ご注意ください。種子の入手希望者がいたら、拙園へのご紹介をお願いします。

8、その他

「愛の香り」について、栽培上やその他でご不明な点がありましたら、下記に記載した拙園までお問い合わせください。「愛の香り」は、下記の写真のとおりポット（用土量7L）での栽培も可能です。自家消費で少量作る場合は、実用的な方法なのでお試しください。



写真 ポット栽培での「愛の香り」は 地上部はコンパクトですが、莢着きは良いです。莢も大きく、きれいです。

レア・ピーナッツ育種園

園主 かつら ひさお
曾良 久男

〒297-0025 茂原市緑町1-19

E-mail rarep@khc.biglobe.ne.jp

WEBサイト [落花生の宝石箱](#)

Tel/Fax 0475-23-2810

URL: <https://rarepnut.com/>

携帯 080-1097-1128